

実例からまなぶ、上手なしかり方・ダメなしかり方 ~幼児編~

「しかるってむずかしい・・・」そう思っている方に次の実例がきっと役立つと思います。

庭で草むしりをしていたときの風景から

娘のエリカは6歳。いつも元気で外で遊ぶことが大好きです。最近、大人のすることに興味を覚え何でもまねをしたがるようになってきました。

今日、母親は庭にある花壇の草取りをしていました。そこに、さっきまで公園で遊んでいた娘のエリカが帰ってきました。

エリカ:「何してるのママ、わたしも手伝いたいなー」

母親:「ありがとう、じゃあこのあたりの草を抜いてね。そうそう、この大きいのは花の苗だから絶対に抜かないでね。」

エリカ:「うん、わかったよ」

しばらくして……

エリカ:「ママ、全部終わったよ。他にやることない?」

しかし、エリカは母親の注意を忘れ、花の苗まで全部抜いてしまいました。



そんな時、あなたならお子さんに何て声をかけますか？



良い例

○「エリカが手伝ってくれたからママとても助かったわ、ありがとう。また手伝ってね! でも、次にやるときには花の苗は抜かないでね!!」

○「ありがとう。お母さんとってもうれしいわ。エリカもやればできるじゃない。あら、お花の苗抜いちゃったね。次は気をつけようね。」

悪い例

○「エリカ、何で花の苗まで抜いちゃったの! あれほど、「花の苗だから絶対に抜かないでね。」って注意したのに!! ダメな子ね。」

○「何やってるの!! 花の苗は抜かないでってあれほど言ったでしょう。エリカはいつもそうなんだから!」